

最新型オープンMRI装置を導入しました。

従来装置より磁場強度が高くなりましたので、画像の鮮明度が向上し、病変の診断に寄与します。また、高速に撮影が出来る為、検査時間が短縮し、患者様の負担を軽減します。

なお、従来装置とは形状が異なり、より検査空間が広く閉塞感や圧迫感が少なくリラックスして検査を受けていただけます。

新MRI装置では、アルツハイマー型認知症診断の手助けとなる、早期アルツハイマー型認知症診断支援システム「VSRAD（ブイエスラド）：Voxel-based Specific Regional analysis system for Alzheimer's Disease」の検査が可能になりました。

VSRADとは、MRI装置で得られた脳画像情報をコンピューター処理して診断支援情報を提供するものであり、関心領域（扁桃を含む両側海馬傍回付近）における脳の萎縮度

等の情報を提供するプログラムです。アルツハイマー型認知症の原因である脳の萎縮を調べるので、重症化を防ぐために重要な早期発見にも効果的と言えます。

従来装置と比較して磁場強度が高くなりましたので、金属類、電子機器、磁気カードなどMRI室への持ち込みには、くれぐれもご注意下さい。

MRI検査は、放射線を使わず人体に対して安全な検査です。

放射線の代わりに強力な磁石を使って体のあらゆる角度の断面像を得ることが出来ます。

病気の早期発見、予防にも有効な検査です。



APERTO Lucent Plus

「高速化」と「自動化」の新たなソリューションにより、検査フロー向上を実現した永久磁場MRI。

WE ARE ONE

共に未来を拓く



2022. 10.25 vol.79

KAKE HASHI

明倫会ニュース

VR導入と遠隔リハビリの環境整備

本山リハビリテーション病院リハビリテーション科では、新しいリハビリツールとしてVRを導入しました。

VRとは、バーチャルリアリティーの略で、その場に実物はなくても実物进行操作しているかのような仮想現実を体験できます。この技術が最近ではリハビリテーションの分野にも応用され、つい先日、当院でもiAdviserというVRが導入されました。iAdviserの最大の特徴はハンドトラッキング機能です。VRを操作する場合には手にリモコンを持ち、仮想現実内の物品を操作するのが一般的ですが、ハンドトラッキング機能があればリモコンを必要とせず、自分の手を使って操作ができます。自分の手を使えることで操作のしやすさが格段に上がり、機器の使用が苦手な方でも普段の生活通りの手の動きでVR内でのリハビリ課題をこなすことが可能です。

また、リハビリテーション科では、タブレットやパソコンを用いてオンラインでの遠隔リハビリも行えるよう環境整備しています。コロナ禍になり、医療界のDX（デジタルトランスフォーメーション）が進む中で、リハビリテーションにおいてもオンラインで参加できることが増えてきています。

退院後にオンラインリハビリを受ける方や、オンラインで当事者会に参加する方など、様々な状況に合わせて、入院期間中から機械の使い方を練習していただく場合もあります。最近ではスマートフォンをお持ちの方も多く、今後もオンラインリハビリの利用率は増えていくと思われます。



編集後記

ベトナム人実習生の受け入れについてご紹介致しました。新型コロナウイルスの影響も懸念される中、遠い異国の地から本当によく来ていただきました。私自身、これまで外国の方とコミュニケーションが取れる機会が少なかったため、新鮮な気持ちです。「もしもベトナム語が喋れたらカッコ良いのになぁ」と、少し妄想してみたり・・・現場の職員にとっても貴重な経験になりますので、お互いに良い成長の機会にできたらと思います。（事務部 杉本）

発行

医療法人明倫会 宮地病院
住所 / 〒658-0016 神戸市東灘区本山中町4-1-8
TEL / 078-451-1221 FAX / 078-431-0080
URL / <http://meirinkai.or.jp/miyaji/>
eメール / miyaji-hp@ksn.biglobe.ne.jp



本山リハビリテーション病院
住所 / 〒658-0015 神戸市東灘区本山南町7-7-15
TEL / 078-412-8080 FAX / 078-412-8787
URL / <http://meirinkai.or.jp/motoyama/>
eメール / motoyama-reha.hp@meirinkai.or.jp



LINE公式
アカウント
はじめました。



ベトナム人実習生紹介



老健あずさでは、9月よりベトナム人技能実習生2名の受け入れを行っています。

技能実習生には、技能研修で習得した技術を母国で生かす技能転移を目的としてあずさで3年間技能検定取得に向けて勉強していただきます。日本語はまだままならないですが、職員や利用者様とコミュニケーション

を図っています。介護技術に関して、分からないことは質問して繰り返し練習するなど早く技術の習得・向上させたいと一生懸命取り組んでいます。

実習生インタビュー

Q：日本に来て驚いたことは？

A：地震が起こったときは本当にびっくりしました！ベトナムでは滅多に起こらないので、弱い揺れでもかなり怖かったです。

また、寒暖差も想像以上に大きかったのが驚きました。

Q：日本に来て嬉しかったことは？

A：最初は本当に不安の方が大きかったのですが、周りの人たちがとても優しく働かやすいことです！

Q：日本に来て食べたもので気に



左からゴックさん、ハーさん

入ったものは？

A：来日して間もなく食べた、オムライスとパスタが美味しかったです！

Q：仕事で特に難しいと感じたことは？

A：シーツ交換などをするのに人を動かすことが、力も使うので難しいです。

認知症サロン「ほのぼのカフェ」

9月16日に認知症サロン「ほのぼのカフェ」を開催致しました。今回のテーマは「アロマで認知症予防



～香りを楽しむ1時間～。これまでのほのぼのカフェとは違い、外部講師をお呼びしたり、一緒に体験活動を行ったり…センターとしても初めての試みの回となりました。アロマを使った虫よけスプレー作成体験の時間では、「柑橘系の匂いが好きなの」「夫も好きそうな匂いだからこれにするわ」とそれぞれが好きな香りをセレクトし、お気に入りの1本を持ち帰っておられました♪皆さん積極的に取り組まれており、良い

雰囲気では会を終えることが出来ました。

体験型のほのぼのカフェの開催は昨年から考えてはいたものの、コロナ禍ということもあり中々開催には至りませんでした。それでも実施出来たのは、参加されている皆様の感染対策のご協力あってこそだと感じました。今後もコロナ禍に負けずに色々企画し、参加して下さる皆様と一緒に楽しんでまいりたいと思います。

ドクターアドバイス

メタボリック症候群

メタボリック症候群とは、内臓肥満に高血圧、高血糖、脂質異常症などが一人の患者様に集積することにより心臓病や脳卒中になりやすい病態を指します。単に太っているだけではメタボリック症候群にはあてはまりません。メタボリック症候群には診断基準があり、腹囲が男性85

cm、女性90 cm 以上で、かつ血圧・血糖・脂質の3つのうち2つ以上が基準値から外れるとメタボリック症候群と診断されます。通称、メタボと呼ばれると、何となくお茶目な印象を持つことがあるかもしれませんが、以前には「死の四重奏」などとおどろおどろしい呼び方をされ

るなど、命に関わる病気にかかるリスクが高くなる決して侮れない病態です。中高年がかかる病気と思われるがちですが、近年増加傾向にあると言われており、太ったかなと思っただけで将来の生活習慣病を防ぐためにも食生活の見直しや適度な運動を心がけるようにしましょう。

本山リハビリテーション病院
リハビリテーション科
佐藤友治



スイカ割り(にこにこデイケア)

あずさにこにこデイケアでは、夏の風物詩スイカ割りを7月26、27日の2日間実施しました。

スイカの重さは1日目13.9kg、2日目12.8kgと大きく誰がスイカを割れるかで大盛り上がりしました。スイカを割る利用者様も白熱していましたが、周りの皆さんも大きな声援を送られていました。割ったスイカはおやつ時間に美

味しく頂きました。スイカ割りを通して楽しみながら身体を動かせていただけたように思います。



ダンス教室

9月30日にダンス教室というイベントを開催しました。認知症疾患医療センターとしては初めての取り組みです。イベント開催に至った理由として、近年認知症予防として、コーディネーションエクササイズ(手や足の運動をコーディネートし、コントロールする運動法)が良いとされていることが挙げられます。中でもその代表的なものがダンスです。

今回は外部講師をお呼びし、ラッツ&スターの「め組のひと」に合わせて皆様に踊っていただきました。(職員も一緒に！)

皆様軽快なステップで、楽しそうに踊っておられました。回収したアンケートには「定期開催を希望する」といった声も多く書かれており、今後の活動の参考にしたいと思います。



健康レシピ

管理栄養士 重村 成美

食欲の秋～メタボリックシンドロームを予防しよう～

食欲の秋というように芋、栗、南瓜など美味しい旬の食材が豊富な秋は食欲がわき、つい食べ過ぎてしまう人も多いのではないのでしょうか。食材の組み合わせを工夫して健康的に食欲の秋を楽しみましょう！

メタボリックシンドロームとは…内臓脂肪蓄積により糖尿病、脂質異

常症、高血圧などさまざまな病気が引き起こされやすくなった状態。メタボリックシンドロームの要因となる肥満を予防するためには1日の適正なエネルギー量の食事を守り、バランスよく身体に必要な栄養素を摂ることが重要です。また適度な運動も大切です。



さつま芋ときのこの豆乳グラタン (2人分)

★作り方★

- 鶏肉は一口サイズに切り、しめじは石づきを切ってほぐしておく。
さつま芋は角切りに切って耐熱容器に入れラップをして電子レンジ(600W)で3分加熱する。
- フライパンにバターと鶏肉を入れて中火で炒め、途中でしめじも入れて炒める。
- バターが溶けたら弱火にして、ふるった薄力粉をしっかりと混ぜながら2～3分炒める。
- 豆乳を3回に分けて加え、その都度よく混ぜる。豆乳が沸騰しないようにする。

- 2～3分混ぜながら加熱しとろみがついたら火を止め、塩、こしょうで味をととのえる。
- ※豆乳ホワイトソースの完成※
- 耐熱皿にさつま芋を入れて④をかけ、上にピザ用チーズをのせる。
- オーブンまたはトースターで焼き色がつくまで10分程焼く。

★きのこ・大豆製品・イモ類には食物繊維が多く含まれています。食物繊維は1日に20～25g摂取することが望ましいとされています。食後の血糖上昇を抑える働きや血中コレステロールの上昇を防ぐ作用があるなど、健康保持のために重要な働きがあります。

材料 (4人分)	
鶏肉	100g
さつま芋	150g
しめじ	40g
豆乳	250ml
バター	15g
薄力粉	大さじ2
塩、こしょう	各少々
ピザ用チーズ	40g